

「幌延町における深地層研究に関する

～研究が三者協定に則り進められていることを確認～

幌延町は今年度、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から提出のあった『幌延深地層研究計画 令和4年度調査研究計画』および『幌延深地層研究計画 令和3年度調査研究成果報告』について、幌延町における深地層の研究に関する協定書（以下「三者協定」という。）第14条に基づき設置する「幌延深地層研究の確認会議」（以下「確認会議」という。）による内容確認結果を踏まえ、三者協定に則り幌延深地層研究計画が進められていることについて確認し、その旨を原子力機構へ文書により通知しました。

幌延深地層研究計画の内容確認に当たっては、令和4年4月26日から令和4年7月14日まで、3回にわたり確認会議を開催し、原子力機構に対し、構成員である北海道、幌延町、専門有識者から質疑を行う形で確認を行いました。

確認した事項の概要については、次のとおりです。

【確認会議で確認できた主な内容】

1 研究成果および研究計画について

（1）令和3年度の研究成果および令和4年度研究計画について

- ・令和3年度は、令和3年度調査研究計画書のとおり3つの必須の課題について研究を行い成果を得ており、令和4年度の研究計画どおり研究を開始し、遅れや新たな課題は生じていないこと。

（2）研究工程について

- ・人工バリア性能確認試験について、令和8、9年度に人工バリア解体施工を実施する計画であること。仮に、情報の不足などがあっても、想定される追加の試験などは、岩石や地下水試料のサンプリングや室内における分析により、短期間で行うことが可能なため、1年の期間があれば十分に行えると想定しており、研究計画に遅れが生じるものではないこと。
- ・深度500mまでの掘削スケジュールについて、工事の設計は終了しており、令和7年度末までに坑道掘削工事を終了する見込みであること。坑道掘削の具体的な工程については、現在手続きを進めているPFI事業の実施事業者が決定後、技術提案などを踏まえて施工計画を策定するため、次年度の確認会議において公表されること。
- ・坑道掘削工事については、令和5年度に着工し、まず350m調査坑道の拡張と深度500mへの掘削に向けた止水対策を行い、令和5年度の中頃より、深度500mに向けた立坑の掘削を開始。令和7年度末までに、全ての施設整備を完了する計画であること。
- ・PFI事業は、令和5年4月から令和11年3月までの期間となり、PFI事業に要した事業費については、年度毎に公表される予定であること。

2 幌延国際共同プロジェクトについて

（1）プロジェクトの目的について

- ・幌延国際共同プロジェクト（以下「共同プロジェクト」という。）は、先進的な安全評価技術や工学技術に関わる研究開発の成果の最大化を目的に、国内外の機関で協力しながら研究開発を進めるものであり、研究開発を進め知識と経験を共有することで、結果として、次世代を担う国内外の技術者や研究者の育成につながるものであること。

（2）研究内容について

- ・共同プロジェクトの内容は、「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」に沿った課題に関わる研究とし、国際的に関心の高い以下の項目を行うこと。
①物質移行試験（「実際の地質環境における人工バリアの適用性確認」）